

令和4年度 技術科 2年 年間指導計画・評価計画

＜1＞ 教科の目標

技術の見方・考え方を働かせ、ものづくりなどの技術に関する実践的・体験的な活動を通して、技術によってよりよい生活や持続可能な社会を構築する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

＜2＞ 各学年・各分野の目標

1. 生活や社会で利用されている材料，加工，生物育成，エネルギー変換及び情報の技術についての基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付け，技術と生活や社会，環境との関わりについて理解を深める。
2. 生活や社会の中から技術に関わる問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，製作図等に表現し，試作等を通じて具体化し，実践を評価・改善するなど，課題を解決する力を養う。
3. よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，適切かつ誠実に技術を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

＜3＞ 評価の観点及びその趣旨

知識及び技能	生活と技術についての基礎的な理解を図るとともに，それらに係る技能を身に付けるようにする。
思考・判断・表現	生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，表現するなど，課題を解決する力を養う。
主体的に学習に取り組む態度	よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて，生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を養う。

＜4＞ 観点別評価の評価基準と評定

観点別 評価基準	A	十分に満足できる状況である。（80％以上）
	B	おおむね満足できる状況である。（50％以上）
	C	努力を要する状況である。（50％未満）

評 定	5	十分に満足できる状況であるもののうちで、特に程度の高いもの。（90％以上）
	4	十分満足できる状況である。（80％以上）
	3	おおむね満足できる状況である。（50％以上）
	2	努力を要する状況である。（50％未満）
	1	一層努力を要する状況である。（20％未満）

＜5＞ 指導上の配慮事項

- ①実践的、体験的な学習や問題解決的な学習活動の設定
- ②言語活動の充実
- ③ICT機器の活用
- ④個に応じた指導

技術科 2 学年 年間指導計画・評価計画

月	単元名 指導時数	ねらい・学習課題 学習活動	評価の観点		
			知能・技能	思考・判断・ 表現	主体的に学習に 取り組む態度
4 5 6	生物を育てる 技術の特徴 生物を育てる ための計画と 管理 (計 10 h) 生物を育てる 技術の評価・ 活用 デジタル作品 の設計・製作 (生物育成内 の 3 h)	・生物を育てる目的をまとめる。 ・生物を育てる技術とは何か調べる。 ・植物を育てるための管理技術を調べる。 ・植物が育つ環境条件を調整する技術を調べる。 ・生物を育てる目的を考える。 ・生物の成長に合わせた育成計画を立てる。 ・種まきをする。 ・温度、水、酸素の発芽条件を保って管理する。 ・定植、誘引、摘しんをする。 ・かん水や養分の日常管理をする。 ・病虫害防除をする。 ・作物を収穫する。 ・育成計画レポートをまとめる。 ・ ・生物を育てる技術を生活に生かす方法を考える。 ・コンピュータの基本操作 ・ ・デジタル作品について調べる。 ・デジタル作品を構成する表現手段の特徴を調べる。 ・デジタル作品の制作手順を調べる。 ・制作手順に沿ってデジタル作品を制作する。	いろいろな環境要因が生物の成長に与える影響について指摘できる。 生物の育成に適する条件と育成環境を管理する方法について指摘できる。 主な病気や害虫等におかされにくい育成方法や、防除方法について指摘できる。 生物育成に関する技術が社会や環境に果たしている役割と環境について説明できる。 設計に基づき、適切なソフトウェアを用いて多様な表現手段を複合し、表現や発信ができる。	育成に必要な条件を明確にし、種類、育成機関などを比較・検討したうえで作物の成長に適した管理作業などを決定している。 成長の変化をとらえ、適切に対応を工夫している。 デジタル作品の使用目的や使用条件を明確にし、表現手段の素材の特徴と利用方法などを比較検討したうえで、作品に適した表現手段の種類やデジタル化の方法などを決定している	環境や安全に配慮して栽培する方法を検討しようとしている。 新しい発想を生み出し活用しようとしている。

9	エネルギー変換・利用と保守点検	・身の回りにあるエネルギーの例をまとめる。 ・電気の発電方法の特徴と課題をまとめる。 ・電気を安定的に供給するための仕組みを調べる。 ・電気エネルギーを利用する仕組みを調べる。 ・電気エネルギーを熱、光、運動などのエネルギーに変換する仕組みについて調べる。 ・機器を安全に使用するためには、保守点検が必要であることを調べる。 ・機器の保守点検の考え方をまとめる。（安全） ・電気による事故の原因を知り、防止する方法をまとめる。 ・機器の異常や不具合の状況を調べる。 ・課題を設定し、解決のための計画を立てる。（安全） ・調査結果をまとめ、発表する。	社会で利用されている機器等における、エネルギー変換、利用について指摘できる。 機器の定期点検の必要性について指摘できる。 機器の点検すべき箇所見つけ、保守点検と事故の防止ができる。 機器の構造や電気回路、各部の働きについて指摘できる		電気機器の定格表示や安全に関する表示の意味及び許容電流の遵守等、適切な使用方法について指摘できる。
10	7 時間				
11					
12					
	製作品の設計				
	・製作	・機能、構造、材料、加工法、価格、安全性などを検討し、エネルギーを有効に利用した製作品を構想する。 ・部品を適切に調整しながら組み立て、製作品を完成させる。 ・エネルギー変換技術が社会や環境に果たしている役割について調べる。 ・現在のエネルギー消費量の傾向と課題を調べる。 ・機器には様々な省エネルギーの工夫があることをしらべる。 ・エネルギー変換に関する技術を適切に評価・活用するための活動を考える。	設計に基づき、安全を踏まえた製作品の組み立て・調整や、電気回路の配線および回路計などを用いた点検ができる。	製作品に適したエネルギーの変換方法や力の伝達の仕組み、構造や電気回路などを決定している。	省エネルギーや使用者の安全などに配慮して設計・製作しようとしている。
	8 時間				
	エネルギー変換技術の評価				
	・活用				
	2 時間				
				組み立てや調整に必要な工具や機器の適切な使用方法について指摘できる。	

1	プログラムによる計測・制御 (8 h)	・身の回りにある電気製品について、自動的に仕事をする例を調べる。 ・計測・制御システムの基本的な構成を調べる。 ・コンピュータを利用した計測・制御の流れを調べる。 ・プログラムとは何か調べる。 ・プログラムを作るための基本的な情報処理の手順を考える。 ・計測・制御をする目的や条件に応じて情報処理の手順を考える。 ・簡単な計測・制御をするためのプログラムを作成する。	設計に基づき、適切なソフトウェアを用いて多様な表現手段を複合し、表現や発信ができる。	デジタル作品の使用目的や使用条件を明確にし、表現手段の素材の特徴と利用方法などを比較検討したうえで、作品に適した表現手段の種類やデジタル化の方法などを決定している	新しい発想を生み出し活用しようとしている。
2					利用者への影響などを考えプログラムを作成しようとしている。
3	情報技術の評価・活用 (2 h)	・情報技術が社会や環境に果たしている役割について調べる。 ・これからの生活や社会を豊かにするための情報技術の活用方法を考える。	計測・制御システムにおける構成や、その中でプログラムによる情報の処理について指摘できる。	計測・制御の目的や条件を明確にし、適した情報処理の手順を決定している。	情報に関する技術の課題を見つけ、解決策を示そうとしている。